学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業　実践記録

研　究　主　題

確かな読みの力を育む授業づくり
～学びの基礎となる読み解く力と情報を扱う力の育成～

香美市立山田小学校

実践概要：
正確に文章を読み解く力と，様々な情報を関連付けて自分の考えを表現する力を育成するために，語彙の質と量を高める指導や，「情報の扱い方に関する事項」に関する指導を取り入れた言語活動を工夫することで授業改善を図ってきた。そのために，国語科の授業において，単元を通して育成したい言語能力と情報活用能力を具体的な学習内容で捉え，学校図書館を活用した単元構想を計画し実践してきた。
その結果，国語科における文章を読み解く力や条件に応じて自分の考えを表現しようとする姿が見られるようになってきた。
キーワード： 言語活動の充実，図書館資料の活用，言語能力，情報活用能力，語彙力向上

１．研究仮説

語彙の質と量を高める指導や，「情報の扱い方に関する事項」にあたる指導を取り入れた言語活動を工夫することで，正確な読みのできる子どもが育つであろう。

《目指す児童の姿》
・文章等で表された情報を正確に理解することができる。
・様々な情報を活用しながら，自分の考えを表現することができる。

２．実践方法

（１）図書館資料や新聞等の活用を通して言語能力及び情報活用能力を育成する授業の実践
［授業の実践］
①図書館資料を効果的に活用した単元構想と授業づくり
②国語科の授業研究会を全学年実施
③１単位時間の振り返りの充実
［語彙力を高める取組］
④高知県国語学習シートの活用
⑤昼のモジュール学習の実施

（２）学校図書館教育計画の作成及び図書館資料や新聞の計画的な活用推進（読書活動の推進）
①読書傾向の偏りを改善したり，朝のスピーチ等で本の紹介をしたりするなど，図書指導の充実を図る。
②図書支援員との連携を図り，「打ち合わせカード」を活用して情報・学習センターの機能を充実させる。
③情報活用能力を育成するために，年間計画に沿った実践を行う。

３．実践内容

（１）図書館資料や新聞等の活用を通して言語能力及び情報活用能力を育成する授業の実践
①図書館資料を効果的に活用した単元構想と授業づくり（学習指導案様式作成）

児童が正確に文章を読み解く力と様々な情報を関連付けて考える力を育てるために，国語科の中でも特に説明的な文章に特化した授業改善に取り組んだ。

〈令和元年授業研究〉

１年	どうやってみをまもるのかな
	いろいろなふね
２年	名前を見てちょうだい（物語文）
	ビーバーの大工事
３年	自然のかくし絵
	もうどう犬の訓練
４年	ヤドカリとイソギンチャク
	くらしの中の和と洋
５年	新聞記事を読み比べよう
	和の文化を受けつぐ
６年	イースター島にはなぜ森林がないのか
	町の幸福論

１年目は，図書館資料を効果的に活用した単元構想の工夫には及ばなかった。第三次に図書館資料を活用することが多く，学習の流れが途切れてしまうような流れになっていた。そこで，２年目は，導入で単元に関連する図書館資料の読み聞かせを行ったり，第二次でも教科書教材と関連した図書館資料を用いたりしながら，単元で付けたい力を明確にした流れを計画するようにした。〈図１〉

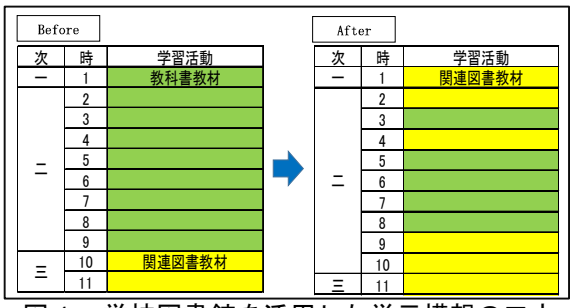

図１：学校図書館を活用した単元構想の工夫

②学習指導案の様式改善
研究主題の具現化を図るために，学習指導案の様式を見直した。学習指導案の１枚目に，単元で付けたい力を明らかにするとともに，研究主題にせまるための具体的な

取組として，言語能力と情報活用能力育成のための，具体的な学習内容を考え，明記することにした。〈図２〉

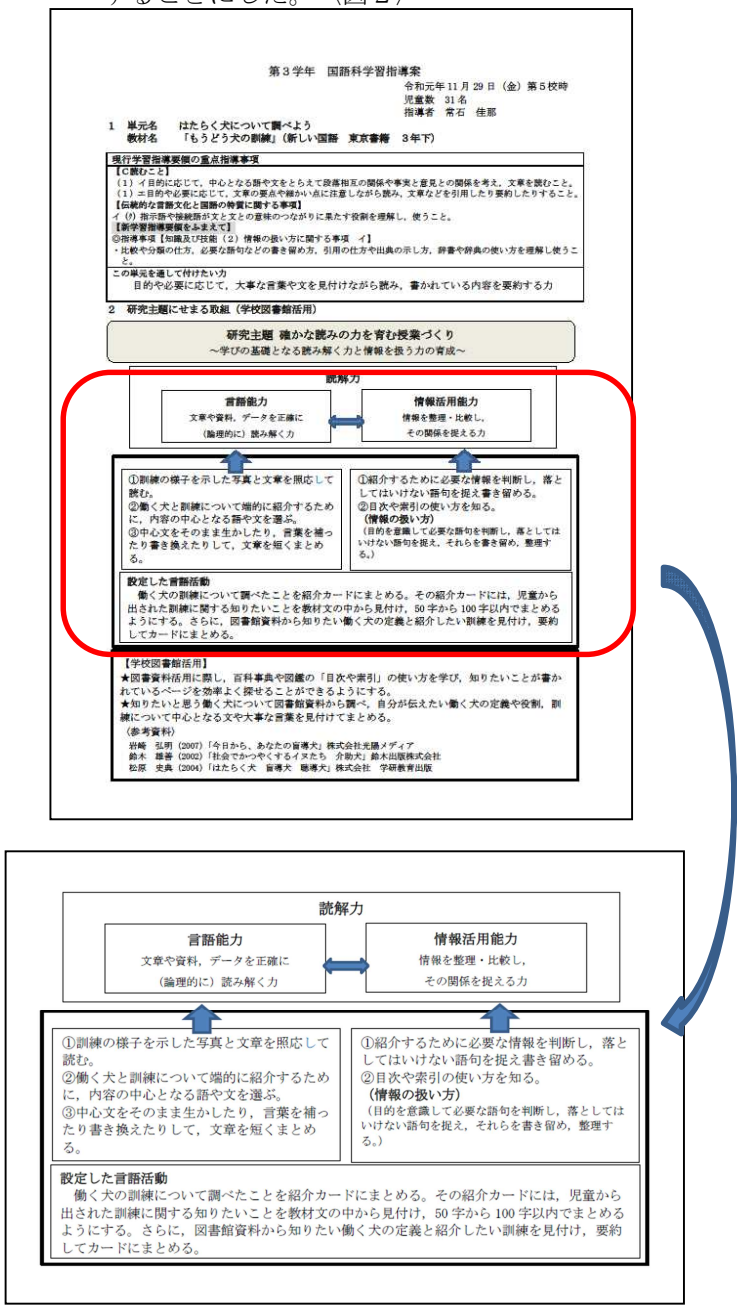

図２：学習指導案様式

学習指導案に「言語能力（読み解く力）」「情報活用能力」の欄を設けることで，単元で付けたい力を具体的に考え，学習計画を立てられるよう工夫した。

③授業改善を図るためのリレー授業

組織的に授業改善を図るために、同一学年間で単元に導入する時期をずらして，お互いの授業を見合いながら授業改善を図るリレー授業の形をとった。その際には，学年で協働して指導案作成を行い，同じ本時案を用いた授業を見合うことにしてきた。また，全学級が研究授業をすることで，一人一人の授業力を高めることとした。

授業を進めるにあたっては，学年団やブロックで教材研究を行い，リレー授業を行いながら改善してきた。また，全校授業研究会の前には，教職員で模擬授業を実施し，それぞれが自分事として参加できるようにした。〈写真１〉

写真１：教職員による模擬授業

④目指す児童の姿を実現するために

本校の目指す児童の姿は，前述の研究仮説に示したとおりである。自力解決の際に，自ら読み解く力を育成しなければならないが，協働解決の中でも，ワークシートの工夫をしたり，ホワイトボードや付箋を活用したりすることで，自分の考えを明確にもち，ペアやグループで主体的に課題解決に臨めるようにした。また，その中で，「取捨選択した情報を使って，自分の考えを表現できる」姿を目指したいと考えた。そして，授業の終末には本時の学びを振り返り，自己を見つめる時間の確保を大事にすることが，自分の考えを表現していく基礎となるものであると考えた。そこで，高知県教育委員会発行の「高知県授業づくりBasic　ガイドブック」の中の授業スタンダードに即した授業スタイルを活用して，本校では１時間の授業の流れを全体で共有し，その中でも特に，「協働解決」と「振り返りの充実」を重点に置くこととした。「協働解決」については，ペア・グループ学習での対話の視点を低学年，中学年，高学年で確認して，実施することとした。

〈図３〉

低学年	ペアで分かったこと（見付けたことを伝え合う。）
中学年	自分と同じところや違うところを聞きながら考える。
高学年	根拠を明確に伝え合い，自分の考えをもつ。

図３：ペア・グループ対話の視点

また，「振り返りの充実」については，書く時間を確保することや，板書にあるキーワードを提示し，書く内容を示すこと等の工夫を行った。そして，「協働解決」と同様に，低学年，中学年，高学年の「振り返りの視点」を決めて取り組むこととした。さらに，児童が次時への学習意欲を高めていくことができるようにするために，コメントを入れて返すことも確認し，教職員全体で取り組んでいくことにした。

その取組を教職員全体で共有しながら進めていくために，ノート実践交流を５月と10月に実施した。ノート実践交流の際には，図書館資料等の活用状況やノートに貼っている読み解くために工夫したワークシートを紹介

し合うことも行った。〈写真２〉〈図４〉

低学年	したことやわかったこと
中学年	したことやわかったこと，友だちから学んだこと
高学年	自己の学びの変容・成長

図４：振り返りの視点

写真２：ノート実践交流の様子

⑤自分で調べる力の育成と言葉の学習

昼のモジュール学習（語彙タイム）の時間を活用して，語彙を増やし，活用できる力を付けるために，漢字や言葉の学習や辞書引き等自分で調べる力を付けるための取組を繰り返し，習熟を図ってきた。

辞書引きにおいては，低学年から自分の力で調べることができるようにするために，語彙タイムで教科書教材の言葉を調べることを繰り返し行い，授業中は机上に辞書を置いて，いつでも調べることができるようにしている。

（２）学校図書館教育計画の作成及び図書館資料や新聞の計画的な活用推進（読書活動の推進）

①学校図書館を活用するための環境づくりや校内研修

国語科の単元や季節に応じた図書館資料を効果的に配架してきた。そして，学校図書館入口には，新聞を設置し，日常的に新聞に触れる環境を整えた。また，大型ＩＣＴ機器やホワイトボードを２枚設置し，情報・学習センターとしての機能の充実を図ることで，学校図書館での授業が積極的に行われるようにしてきた。その他にも，図書館資料として，図書支援員が学習に活用できる新聞のスクラップづくりをしたり，高知県内のリーフレットを収集したりした。この新聞記事やリーフレットは，５年生の「新聞記事を読み比べよう」や「和の文化を受けつぐ」を学習する際に活用されている。さらに，学校図書館としての情報・学習センターとしての機能について理解を深めるために，年度当初に「学校図書館の機能とは」「図書館資料とは」等の教職員研修を実施している。また，図書支援員と「打ち合わせカード」を活用した情報共有を行ってきた。学校図書館を活用した単元構想を計画する前に，図書支援員と学年団がこのカードに記入しながら話し合う場を設定した。図書支援員より図書館資料の収集及び紹介をしてもらい，学校図書館を情報・学習センターとして活用していく計画を立て，単元を構想する際に生かしてきた。例えば，単元の導入に，読書ボランティアの方に読み聞かせをしてもらったり，収集した図書館資料が学習に適切かどうかを共に検討したりしてきた。１年目に導入したこのカードの情報を２年目に活用することができ，今後も継続して残すようにしていく予定である。〈図５〉

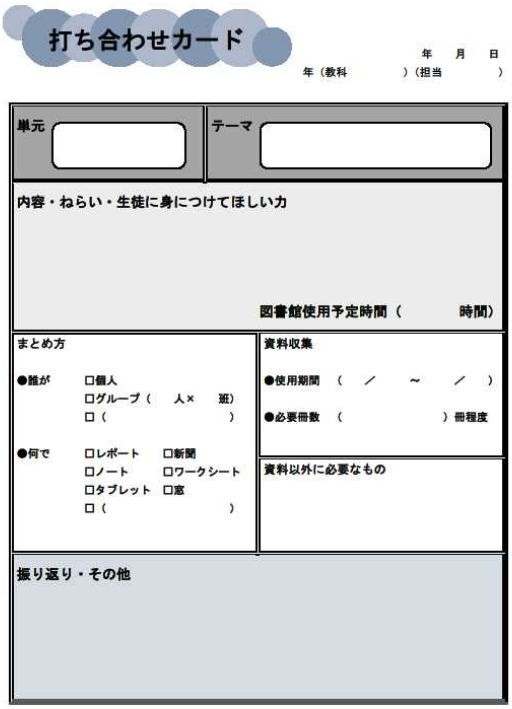

図５：打ち合わせカード

②学校図書館活用年間計画に沿った実践

図書担当教員と図書支援員を中心に，年度当初に読書指導を行うようにした。その後の指導に関しては，学級担任が授業と関連させて実施するようにしてきた。

４．成果と課題

（１）意識調査による検証

学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業の成果を検証するために，授業力チェックシートから４つの重点項目に絞り，調査を行ってきた。〈表１〉（達成目標値は 3.5 ポイント以上と設定している。）山田小学校授業スタンダードを作成して取り組み，具体的な課題や実践方法を明確にするために，昨年度は板書交流，今年度はノート実践交流を行ったが，児童・教師ともに，目標を達成することができなかった。しかし，両方ともに数値に大きく変化が見られた。

項目④「協働的な学び」は，ワークシートの工夫をしたり，ホワイトボードや付箋を活用したりすることで，個人で思考したことを友達に伝えたいという姿が見られるようになってきたことが上昇の要因ではないかと考えられる。また，⑥「振り返り」の項目でも児童の数値が上昇していた。低学年，中学年，高学年としての視点を決めて取り組んだことや，教職員が児童一人一人のノートに赤ペンでコメントを入れることを熱心に取り組んだことで，振り返りを書くことの習慣化が見られるようになり，児童が自己の学びの振り返りを意識して取り組めるようになってきたことが成果につながっていると考える。

教師側の数値においては，昨年度の４月と比較すると，⑧「振り返り」の数値が 0.8 ポイントも上昇していた。これは，学びに向かう児童の姿や振り返りの記述内容に変化が見られたことで，取組に対する自信が得られたことが要因であると考えられる。

しかし，教職員で結果分析に関する共有を行った際には，ペア・グループ学習での活動は仕組んでいるが，話合いが十分に深まっているとは言い難いという意見が出ていた。児童が自ら友達と関わり合って，学びを共有したいという必然性をもたせる工夫をしていく必要がある。

	検証の視点	30年度（４月）	31年度（４月）	11月
児童	②先生と，または友だちといっしょに「めあて」を考えたり，課題を発見したりして，自分から進んで学習に取り組むことができた。	3.1	3.2	3.1
	④友だちと話し合うなどして，自分の考えを深めたり，広げたりすることができた。	3.1	3.2	3.3
	⑥学習のまとめを発表したり，書いたりすることで，分かったことやできるようになったこと，さらに考えてみたいことなどを，振り返ることができた。	3.3	3.2	3.3
教師	④児童生徒にねらいをつかませ，課題意識をもたせている。	3	2.7	3.4
	⑥ねらいを達成するために，話し合いや交流の目的を明確にしている。（協働的な学び）	2.7	2.8	3.2
	⑧児童生徒と本時の学習のまとめを行い，子ども自身が学び（学んだことやできるようになったこと，さらに考えたいこと等）を振り返る時間を設けている。	2.6	2.8	3.4

表１：授業力チェックシートの結果

学校図書館の活用については，授業を実践していく中で，図書館資料を効果的に取り入れて，第二次の教科書での学びが関連図書教材ですぐに生かされることで，自身の学びの成長を実感できるように単元構想を工夫してきた。

児童の結果を比較してみると，数値の上昇は見られたものの，大きな変化は見られなかった。しかし，国語科で学校図書館を活用した単元構想の工夫をしてきたことで，関連図書教材を積極的に活用する児童の姿が見られるようになってきた。

教師側の数値においては，数値が大きく上昇していた。「学校図書館の機能」「図書館資料とは」等の校内研修を行うことで，学校図書館を身近に感じるようになり，情報・学習センターとしての活用の場が広がってきたからではないかと考えられる。

一方，自分の考えを広げたり深めたりするために，効果的な使い方ができているかといえば，まだ十分ではないと感じている。来年度も学校図書館を活用した単元構想の工夫を実践していくことが必要である。〈表２〉

	検証の視点	30年度（４月）	31年度（４月）	11月
児童	⑦図書館の本や新聞などを使って調べたり話し合ったりする学習を行うことができた。	3.1	3.1	3.4
教師	⑨児童生徒の知識や考えを広げたり，深めたりするために，図書館資料や新聞等を効果的に活用している。	2.5	2.2	3.2

〈表２：授業力チェックシートの結果〉

（２）学力調査について

全国学力・学習状況調査の結果は，全国平均正答率を 0.2 ポイント上回っていた。複数の情報や条件を理解し，問題用紙に書き込みをしながら解答する姿が見られた。なかでも，記述式問題の正答率が 8.3 ポイント全国を大きく上回っていた。昨年度より取組を始めた「振り返りの時間確保」について年度当初に再確認をし，継続して取り組んできたことが書くことへの抵抗感を減らすことにつながり，自分の考えを表現しようとする力となってきたのではないかと考えられる。

標準学力調査の結果は，５年は全国平均正答率を上回ることができなかったが，３年と４年は全国平均正答率を上回っていた。〈表３〉しかし，「話すこと・聞くこと」の領域が全国と比較すると低い結果となった。友達と意見交換ができるような仕組みや，相手意識をもって話を聞くことが必要である。

一方，昨年度より引き続き，「書くこと」の領域は伸びてきている。全国と比較すると，３年は７ポイント，４年は 28.3 ポイント，５年は 2.2 ポイント高かった。

	全国と比較して
３年	（＋）2.9
４年	（＋）2.0
５年	（－）0.9

〈表３：標準学力調査の結果：国語〉

高知県学力定着状況調査の結果では，県平均・全国平均の正答率を上回っており，記述式問題の正答率が高かった。特に，条件作文は無答がなく，条件に合わせた解答になっており，確かな力となってきた。また，説明文に特化して取り組んだことで，説明文の正答率も上がってきている。

これらの結果より，文章を正確に読む力や問われていることの意味を理解する力，大事な言葉を捉える力が付いてきているのではないかと考えられる。〈表４〉

	全国と比較して
4年	（＋）　10.5
5年	（＋）　3.6

〈表４：高知県学力定着状況調査の結果：国語〉

（３）国語科を中心とした授業改善

２年間にわたり，様々な講師の方々からご教授いただいたことで，新学習指導要領の趣旨に沿って，図書館資料を効果的に活用した単元構想と授業づくりや，読みを深めるための学習展開の研究等の理論と実践を得ることができた。この単元構想を具現化していくために，学習指導案の様式を改善したことで，何をどのように指導し，学ばせるのかを具体的な学習内容で検討することができた。また，同時に情報活用能力を育成するために，教材文の中にある情報をどのように捉え，それをどのように活用すればよいかも検討することができた。

そして，授業においては，リレーで授業を実践しながら，授業改善を図ることができた。学年団やブロックでリレー授業を実践しながら授業改善を図っていく仕組みも定着してきている。

一方で，言語能力・情報活用能力を育成するために，教材文に出てくる絵や写真と文章を照応させながら考える場面を設定してきたが，複数の情報から目的に合った情報を見付けて活用する力はまだ十分ではないため，今後も教員同士で模擬授業やリレー授業を継続して実践していく必要がある。

【参考文献】

・文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」2018 年２月